

## 議論のポイント（例）

- 気候変動の観点から実施されている様々な取組を、防災科学技術の観点からどのようにとらえ、今後の研究開発につなげていくべきか。
- 中長期的な気候変動の影響と、短期的な災害のハザード・リスクに関するこれまでの知見や研究成果の相乗効果を高めていく観点から、どのような防災科学技術の取組が求められるか。
- 気候変動の影響評価と適応策について、防災における復旧・復興やレジリエンスの観点からどのようにとらえ、防災科学技術との一層の連携を進めていくべきか。
- 防災情報の収集・分析・加工・共有体制の強化の観点から、防災分野と気候変動分野におけるデータ連携をどのように図っていくべきか。
- 複合的な災害影響や、分野間の影響の連鎖について、イベント・アトリビューション等の新たな知見も踏まえ、防災科学技術の観点からどのように取り組んでいくべきか。

（参考）気候変動影響評価報告書（令和2年12月、環境省）総説（抜粋）

気候変動による影響に適切に対処するためには、このような各分野において生じる影響の把握・予測だけでなく、分野・項目を超えた影響の連鎖に着目することの重要性が指摘されている。例えば近年の気象災害において、インフラの損傷やライフラインの途絶により、社会・経済へ大きな影響を及ぼしたことが確認されている。そのため本報告書では、ある影響が分野を超えてさらに他の影響を誘発することによる影響の連鎖や、異なる分野での影響が連続することにより影響の甚大化をもたらす事象を「分野間の影響の連鎖」と定義し、事例を整理するとともに、懸念される影響について記載した。これらの発生メカニズムは複雑であり、現在では知見が少なく評価を実施できていないため、今後の科学的知見の充実が望まれる。

（参考）イベント・アトリビューション（国立環境研究所ホームページ）

個々の異常気象に対して、地球温暖化がどの程度影響を与えていたかを定量的に評価するアプローチの総称。異常気象の頻度や強度など、何の変数を対象にするかによって、用いるモデルや手法は異なる。

○ 気候変動の影響評価や適応策の推進の観点から、防災科学技術研究所が今後果たすべき役割について、どのように考えるか。

(参考) 防災科学技術研究所の設置目的：防災科学技術に関する基礎研究及び基盤的研究開発等の業務を総合的に行うことにより、防災科学技術の水準の向上を図る

※「防災科学技術」：天災地変その他自然現象により生ずる災害を未然に防止し、これらの災害が発生した場合における被害の拡大を防ぎ、及びこれらの災害を復旧することに関する科学技術

※「基盤的研究開発」とは、研究及び開発（以下「研究開発」という。）であって次の各号のいずれかに該当するもの

一 防災科学技術に関する共通的な研究開発

二 防災科学技術に関する研究開発であって、国の試験研究機関又は研究開発を行う 独立行政法人に重複して設置することが多額の経費を要するため適当でないと認められる施設及び設備を必要とするもの

三 防災科学技術に関する研究開発であって、多数部門の協力を要する総合的なもの